

報告タイトル (*日本語と英語両方ご記入ください)

レント管理の分析視角

“Analytical Perspective for Rent Management”

氏名(所属)

山口 健介(東京大学)

YAMAGUCHI Kensuke (The University of Tokyo)

要旨(800字程度)

レントは一般的には超過利潤と理解されている。主流派経済学においては経済パフォーマンスに負の影響を与えるものとして、原則的に考えられてきた。この主な背景にはレント・シーキング自体のコストと、独占レントによる市場非効率化への着目があった。これに対してカーンらは、独占以外にも生じうるレントを見出し、資源レントや学習レントなどにおける市場効率への正の影響を指摘して、2000年代以降のレント研究の射程を広げた(Khan & Jomo 2000)。

他方で、カーンらの研究で不十分と思われるのは、レントと経済パフォーマンスの関係性についての検証である。例えば、ある時点で効率的なレントが、別の時点で非効率的なレントに変容するのであれば、市場効率に寄与するはずだったレントは(一定の期間を経て)経済成長には負の影響を及ぼしうる。すなわち、カーンらのレント論においては動学的なレント分析の為のフレームワーク提示が不十分であり、最近のNgoらの研究でこの点が理論的に深められつつある(Ngo 2020)。本分科会の目的は、この分析視角に示唆を得ることである。

第1の報告(山口健介、東京大学)では、上記に示したKhanによるレント論の紹介と、その展開可能性について議論する。第2の報告(Christine Ngo、Bucknell大学)では、ベトナムの自動二輪産業などを事例に報告する。自動二輪産業ではベトナム政府が恩典を学習レントとして施したものの2000年代に入るまでは日系企業の独占レントに変容してきた。その構造が崩れたのは、中国企業の参入によるものであった。第3のLim報告では、マレーシアのパームオイル産業の事例を報告する。同産業においては主な輸出先であった中国における、近年のBRIの展開によって、マレーシア国内での資源レントに影響が生じている。

これら3つの事例報告をもとに、討論者も交えレント管理を分析する視角について議論し示唆を得てみたい。

Khan, M. H., & Jomo, K. S. (Eds.). (2000). Rents, rent-seeking and economic development: Theory and evidence in Asia. Cambridge University Press.

Ngo, C. N. (2020). Rent Seeking and Development: The Political Economy of Industrialization in Vietnam. Routledge.